



日本女子大学 食科学科、栄養学科（仮称）／
食物・栄養学専攻

グエン・ヴァン・チュエン先生 記念奨学金

日本とベトナムの架け橋となられた故 家政学部食物学科教授
グエン・ヴァン・チュエン先生のご遺志を引き継ぎ創設された奨学金です

対象：2025年4月に食科学部食科学科／栄養学科（仮称）もしくは家政学研究科食物・
栄養学専攻（修士課程）に入学するベトナムからの留学生（在留資格：「留学」）

授与額：月額10万円×10ヵ月（4月～翌年1月）

※4月のみ別途20万円支給



問い合わせ先

日本女子大学 国際交流課

Tel 03-5981-3352 Fax 03-5981-3353

E-mail n-abroad@atlas.jwu.ac.jp



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

日本女子大学 グュエン・ヴァン・チュエン先生記念奨学金

2025年度 奨学生募集要項

ギュエン・ヴァン・チュエン先生記念奨学金は日本とベトナムの架け橋となられた故・家政学部食物学科教授のギュエン・ヴァン・チュエン先生のご遺志を引き継ぎ、その基金を財源として家政学部食物学科（※）もしくは家政学研究科食物・栄養学専攻（修士課程）に入学する、優秀なベトナム人留学生を対象に設立されました。様々な食に関する問題に関心を持ち、食物学や栄養学の知識や技能を生かして、これからの母国や日本の社会に貢献したいと考えているベトナム人留学生を支援します。

※家政学部食物学科は2024年度で学生募集停止。

2025年度より食科学部食科学科／栄養学科（仮称）を開設予定。

1. 応募資格

- ① 2025年4月に食科学部食科学科／栄養学科（学部）もしくは家政学研究科食物・栄養学専攻（修士課程）に入学する、在留資格「留学」の私費留学生
- ② ベトナム国籍を持つ者
- ③ 成績・人物ともに優秀な者

2. 支給額

月額10万円。但し4月のみ別途20万円。

3. 支給期間

1年次（4月～翌1月。10ヶ月間）

4. 募集人数

若干名

5. 応募書類

- 1) 学部生：外国人留学生特別入試出願書類に加え、別紙「2025年度ギュエン・ヴァン・チュエン先生記念奨学金願書」
- 2) 大学院生（修士課程）：大学院入試出願書類に加え、別紙「2025年度ギュエン・ヴァン・チュエン先生記念奨学金願書」

6. 奨学金応募締切

各々の入試出願締切に準ずる

本学入学試験については、下記の募集要項をご覧ください。出願書類を送付時、当奨学金願書を同封して応募してください。

- 日本女子大学 外国人留学生入試 募集要項

<https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/exam/foreign.html>

出願期間：2024年10月21日（月）～10月25日（金）

- 日本女子大学大学院 家政学研究科修士課程 募集要項

<https://www.jwu.ac.jp/unv/admission/grd/application.html>

出願期間：第I期出願 2024年8月16日(金)～8月22日(木)

（2次募集 2025年2月3日(月)～2月7日(金)※）

※第I期出願の結果を見て、追加募集として実施する場合のみ。

7. 選考方法

各々の入試の成績及び出願書類により選考

8. 選考結果の発表

入試の合格発表と共に通知

9. 支給方法

入学後毎月、国際交流課で在籍確認の上、本人の口座に振り込み

10. 留意事項

奨学生として採用された者は、下記の義務を果たす必要があります。

これに反する者は奨学金支給の停止および返還義務が発生する場合があります。

1. 入学時、誓約書の提出
2. 一年後、学習成果に関するレポートの提出
3. 毎月の在籍確認（国際交流課で書類に署名）

以上

【お問い合わせ】

日本女子大学 国際交流課

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

Tel 03-5981-3352 Fax 03-5981-3353

E-mail n-abroad@atlas.jwu.ac.jp

[事務室開室時間] 月～金曜日 9:00～17:00

土曜日 9:00～11:30

グエン・ヴァン・チュエン先生記念奨学金の設立について ーそのお人柄を偲んでー

この奨学金は、数多くのベトナム人留学生を支援されてきた日本女子大学家政学部教授故グエン・ヴァン・チュエン先生のご遺志を引き継ぐために設立しました。今回、この奨学金をベトナムの皆様にご案内するに際し、先生の経歴やお人柄を、ぜひ知っていただきたいと思い、ここにご紹介いたします。

グエン・ヴァン・チュエン先生は1944年ベトナム生まれ。1963年に当時のサイゴン大学薬学部を退学し、国費留学生として日本に來日されました。留学先は、フランス・アメリカ・日本の選択肢があったそうですが、先生はその中から日本を選ばれ、1968年に東京大学農学部農芸学化学科を卒業。同大学院農学系研究科農学化学専攻博士課程を1973年に修了し、農学博士の学位を取得されました。

1982年桜美林大学短期大学の助教授として、家政学科で食品栄養学の授業を担当したことが家政学との最初の出会いになりました。同短期大学教授を経て、1991年より日本女子大学家政学部教授に着任。2008年に急逝なさるその前日まで、教育・研究に尽力されました。

研究の視点が、農芸化学から食物学に移っていったことについて、先生は下記のように書き記しておられます。

「農芸化学は大学によって多少異なるが、基本的に生物系、有機化学系、食物・栄養系、微生物系である。研究手法としては基本的に生物学、化学、生化学、分子生物学などである。研究対象はものの生産、または生命現象を解明することが目標ではないだろうか。即ち、生産者の立場から“もの”を作り、ヒトの生活に貢献する学問分野であると思う。

一方、家政学の範囲は農芸化学よりももっと広く、衣・食・住の他に児童、家庭経営、家庭教育、家政経済、社会福祉などである。即ち、家政学の内容は文系から理系までの広がりを持っている。

家政学は根本的に実学であり、ヒトの生活、ヒトの福祉のために役立つ学問ではなかろうか。

私の研究の視点も生産者立場の農芸化学から消費者の立場に立つ研究や教育の家政学に変わったと思う。」

先生は、在日ベトナム人総会の代表も務められ、国情が厳しいことを憂いつつ、母国ベトナムからの留学生の受入だけでなく、日本における日常的な支援にも献身されてきました。そして数多くの学会活動、国際的な共同研究にも多大な貢献をされ、その専門分野で輝かしい功績を残してきた外国在住のベトナム人として、2007年には母国ベトナムでも表彰さ

れたのでした。

2008年6月16日、グエン・ヴァン・チュエン先生は64歳で急逝されました。翌年、ハノイにある国立栄養研究所の図書館には、グエン先生の著書が収められたコーナーが開設されました。ご遺族がメコン川河口・九龍（キューロン）で散骨なさった際は、先生を慕うベトナム人の教え子達がハノイやホーチミンから十何人も集まったそうです。またお世話になったベトナム人学生の多くは、今でも命日にはご家族に電話をかかさないと伺っています。

大変な勉強家であるかわら、ご家族にも学生にも優しく、そして何よりベトナムを愛した64年の生涯でいらっしゃいました。ぜひグエン先生のお志を継いで、「人間生活に役に立つこと」を研究する人材が、再びベトナムから現れることを願ってやみません。

